

SAA 2024 年末号

End of Year Issue



Newsletter
December 2024

1. 会長 メッセージ

～アフリカにおける農業変革を目指して～

親愛なる SAA パートナーの皆様

2024 年もいよいよ終わりが近づいてきました。今年、ササカワ・アフリカ財団（SAA）として達成した数々の成果を振り返る中で、感謝と誇りの気持ちが胸に溢れています。今年、私たちの事業の核となる「土壌の健全性」を軸に、持続可能な農業開発の取組みにおいて特筆すべき一年となりました。

5 月にはケニア・ナイロビで開催されたアフリカ肥料・土壌健全性サミット（AFSH サミット）に参加しました。このサミットは、「アフリカ土壌イニシアティブ（SIA）」を立ち上げるための重要な基盤を築く場となり、アフリカの農業が直面する土壌の劣化や栄養不足といった最大の課題の一つに取り組む契機となりました。

また、今回、サブサハラ・アフリカ全域で土壌の健全性と農業生産性を向上させる 50 の実践的な環境再生型農業の技術を紹介する書籍「A Basket of Regenerative Agriculture Technologies for the Improvement of Soil Health in Africa」を発表できたことを嬉しく思います。

土壌健全性とどまらず、2024 年には包摂性（インクルーシブネス）を一層推進しました。若者、女性、障がいを持つ方々が農業変革において欠かせない役割を担えるよう、栄養を重視した農業と市場志向型アプローチを推進しました。さらに、農業普及システム全体のキャパシティ・ビルディングと、デジタルツールの活用を進めることで、より広範なインパクトをもたらしました。

振り返れば、2024 年は、皆さまの揺るぎないご支援、情熱、そして共に歩む決意のおかげで、成長と連携の年となりました。2025 年を迎える今、アフリカ全土の農家が持つ可能性を最大限に引き出し、食料安全保障のさらなる強化を目指す取り組みが一層広がることを願っております。

この道のりを共に歩んでいただいた皆さまに、心より感謝申し上げます。どうぞ素晴らしいホリデーシーズンと実り豊かな新年をお迎えください。

ササカワ・アフリカ財団
会長 アミット・ロイ

※本ニュースレターは、英語版オリジナル(URL: <https://saa-safe.org/newsletter/december-2024/>)の翻訳版となります。

本号の内容

1. SAA 会長メッセージ... 1

2. 特集：アフリカにおける土壌健全性向上のための環境再生型農業技術集を刊行... 2

3. 現地からの声... 3

エチオピア：SEP によるマンゴー農園の活性化～複合農業経営で成功したハレグさんの物語～

エチオピア：ティグライ州での小麦生産性向上：アムリシャさんの「地域課題解決実践研究（SEP）」による挑戦

ウガンダ：地域を変える力：マーガレットさんの農業を通じた経済自立と栄養改善

ウガンダ：ボランティアからリーダーへ：ビジネス型コミュニティ普及員として、地域農業に貢献するマイケルさんの物語

4. 活動報告... 6

エチオピア：SAA と FOLU がウォルタイ・ミソマ生産者グループを訪問

エチオピア：アボカドの収穫後ロス削減に向けたワークショップを開催

エチオピア：日本財団支援による製粉プロジェクトが女性の自立と地域発展を促進

ウガンダ：ウガンダにおける視察研修を通じた OSCA リーダーの能力強化

ナイジェリア：地域の農業機械メーカーを育成し、収穫後ロス削減へ貢献

ウガンダ：SAA ウガンダ事務所、全国農業普及週間 2024 に参加

ナイジェリア：農業普及のデジタル化と官民パートナーシップの可能性

エチオピア：地域規模での持続可能な農業を推進

2. 特集

アフリカにおける土壌健全性向上のための環境再生型農業技術集を刊行



ササカワ・アフリカ財団（SAA）は、アフリカの土壌健全性の向上に貢献する 50 の環境再生型農業技術を、現場の実証例とともに紹介する書籍『A Basket of Regenerative Agriculture Technologies for the Improvement of Soil

Health in Africa: 50 Technologies for On-farm Demonstrations』を発表しました。

本書は、サブサハラ・アフリカにおける土壌の健全性と農業生産性の向上を目的とし、土壌科学と包括的な管理アプローチを統合した実用的な技術を提供することで、アフリカの農業が直面する喫緊の課題に対する解決策を提示しています。

本書は、以下の点に重点を置き、環境再生型農業技術を体系的にまとめた技術集です。

- ✓ 土壌有機炭素（SOC）の増加
- ✓ 水の保全と管理の促進
- ✓ 総合的なアプローチによる土壌の肥沃度向上
- ✓ アフリカの土壌特有の課題への対応

紹介されている技術は、適正農業規範（GAP）や地域ごとの土壌特性に応じた肥料の推奨を補完するものであり、農業普及員が小規模農家を効果的に支援するための重要な手段でもあります。各技術は「バスケット」の一部として紹介されており、農家は自身の土壌、気候、利用可能な資源に応じて適切な技術を選択し、実践することができます。

著者 ステラ・カビリは、生産生態学と資源保全を専門とする科学者で、SAA の環境再生型農業の主任を務めています。同氏は、気候適応型農業技術の普及拡大、持続可能な栄養素管理の推進、植物栄養における二酸化炭素排出削減に焦点を当てた研究を手がけるなど、幅広い経験を有しています。

書籍は[こちら](#)からダウンロードいただけます。

<https://www.saa-safe.org/news/news.php?nt=1&vid=635&lng=jpn>

2. 現地からの声

SEP によるマンゴー農園の活性化～複合農業経営で成功したハレグさんの物語～



ササカワ・アフリカ財団（SAA）エチオピア事務所は、メケレ大学で学ぶ中堅普及員 2 名を支援し、ティグライ州ラマ・アディアベアテ郡メイウォイニ村にあるハレグ・ゴベゼイさんの農場で、「地域課題解決実践研究（SEP）」を実施しました。

ハレグさん（46 歳）は 6 人の子どもの母親であり、2005 年から 2006 年にかけて、近隣の河川敷から肥沃な土壌を運び、接ぎ木したアップルマンゴーの苗を植えることで、岩だらけの土地を改良し始めました。しかし、気候変動の影響や土壌の栄養不足により、思うように成長せず、長年にわたって生産性の向上に苦戦していました。

この状況を改善するため、SEP に参加するビルハネ・ゲダムさんとアルガネシュ・ゲブレセラマさんが、ハレグさんの農業活動にさらなる可能性を見出しました。彼らは、接ぎ木技術の改良、有機肥料の活用、作物保護、農場管理、適正農業規範（GAP）の導入など、多方面から支援を実施しました。ハレグさんは、マンゴーの木の周りに穴を掘り、自家製の堆肥とバーミコンポストを施肥することで、果樹の健康を向上させ、収穫量を飛躍的に増加させることに成功しました。

地域紛争やコロナウイルスのパンデミックによる困難にも関わらず、ハレグさんは 2019 年以降、再生した 12.5ha の農地から、マンゴー 500 トン、アボカド 7.5 トン、バナナ 25 トン、オレンジ 25 トン、パパイヤ 0.5 トンを販売し、総額約 4000 万ブル（約 93 万ドル）の収益を上げました。この成功により、彼女は地区内に 3 軒の家と 1 軒のゲストハウスを建設し、メケレ市内には別宅を所有するまでになりました。



マンゴーの苗木を育てるハレグさんの圃場

さらに、彼女の農場は現在、農家、研究者、専門家、講師、投資家にとって、環境に配慮した有機農業や気候変動に強い農業の実践例を学ぶデモンストレーション圃場として活用されています。また、乳牛 14 頭、雄牛 1 頭、羊 20 頭の飼育や養蜂、100 羽の鶏を活用した複合農業も展開し、契約栽培の一環としてマンゴーの台木 3000 本と接ぎ木苗 2000 本を生産することで、地域の需要にえています。

ハレグさんの取り組みは、彼女自身と家族の収入を向上させるとともに、家庭の栄養状態の改善にもつながりました。一時は放棄され、生産性が低かった土地が、大きな可能性を持つ農場へと生まれ変わったことは、環境再生型農業の実践が持つ力を示す一例と言えるでしょう。

全文はこちら：

<https://www.saa-safe.org/news/news.php?nt=2&vid=628&lng=jpn>



ティグライ州での小麦生産性向上：アムリシャさんの「地域課題解決実践研究（SEP）」による挑戦



メケレ大学で農業普及学を専攻するアムリシャ・ゲブレジャバーさん（29歳）は、ティグライ州ツェラ・ウォンベルタ郡メサヌ村で小麦の栽培技術の普及に尽力しています。彼女は、大学カリキュラムの重要なコンポーネントである「地域課題解決実践研究（SEP）」において、ササカワ・アフリカ財団（SAA）の支援を受けて、高収量で耐病性のある小麦品種「ピカフロー（Picaflor）」の導入と適切な栽培技術の指導を行っています。

この地域では、従来のばらまき式による小麦栽培の平均収穫量は1.6トン/haでしたが、アムリシャさんの指導の下、すじ時きを採用することで2.8トン/haへの収量増加が期待されます。当初、新しい播種方法に消極的だった農家のハドゥ・デスタさんも、彼女の丁寧な指導を受けてすじ時きを採用し、収穫量が50%増の3.2トン/haに達する見込みです。



フィールド・デーで資料を確認するアムリシャさん

2024年10月30日、アムリシャさんはSAAの協力のもとフィールド・デーを開催し、多くの農家や大学関係者、農業普及員が改良品種と改良技術の効果を直接確認しました。メケレ大学の学部長であるネガシュ・アレガイ博士は、農家に対して新しい農業技術の導入を奨励し、SAAのテスファエ・ウォルク博士はSAAの成果やエチオピアにおける農業改革の意義を強調しました。

2025年2月に卒業を予定しているアムリシャさんは、灌漑システムと効率的な栽培技術を組み合わせることで、地域全体の小麦生産性をさらに向上させることを目指しています。なお、2023年10月の和平合意を受けて、SAAは日本財団の助成金を活用し、メケレ大学での「地域課題解決実践研究（SEP）」プログラムの支援を再開しました。これにより、ティグライ州における農業システムの再建と発展に向けた取り組みが新たな一歩を踏み出しています。

全文はこちら：

<https://www.saa-safe.org/news/news.php?nt=2&vid=627&lng=jpn>



地域を変える力：マーガレットさんの農業を通じた経済自立と栄養改善

オトゥケ県に住むマーガレットさんは、夫の死後、7人の子どもを育てながら、自給的農業に頼る生活で経済的な困難に直面していました。2018年、日本財団と地方政府の支援のもと、ササカワ・アフリカ財団（SAA）が設立に協力した「オバン・ベール女性グループ」に参加し、環境再生型農業、市場志向型農業、市場調査技術、栄養に配慮した農業の研修を受けました。この研修を通じて農業活動を多様化し、収入を最大化することに成功しました。特に需要の高い作物であるスイカの栽培に可能性を見出し、2019年にSAAの支援を受けて灌漑設備を導入し、4エーカーの農地でスイカの栽培を開始しました。

マーガレットさんの成功は、研修と支援が農家の生活向上や地域社会のウェルビーイングに貢献できることを示しています。現在、彼女は1回の収穫で約2,500個のスイカを収穫し、1,688米ドルの収入を得ています。そのスイカはウガンダ国内だけでなく、ケニアの買い手にも人気があり、地域経済や国境を越えた貿易を活性化させています。また、収穫期には地域の若者10人を雇用し、雇用創出にも寄与しています。

さらに、栄養に配慮した農業の研修をきっかけに、食品加工や付加価値創出にも取り組み、栄養価の高いお粥やスナックを生産しています。これらの活動により、1日114

バランスの良い食事について指導するマーガレットさん（右）



米ドルを稼ぎ、収入源を多様化させています。この成果により、家族の教育や医療、栄養を向上させるだけでなく、リラ市で賃貸アパートを建設するという新たな目標を実現しつつあります。

さらに、彼女は「栄養モデルホーム」のホストとして、地域住民にバランスの取れた食事や家庭菜園の技術を教え、オトゥケ県の5歳未満児の栄養不良を減少させることに貢献しています。マーガレットさんの事例は、女性農家のエンパワメントが地域社会全体に利益をもたらすことを示すとともに、SAAのような組織との連携が持続可能な変革を生む可能性を示しています。

全文はこちら：

<https://www.saa-safe.org/news/news.php?nt=2&vid=627&lng=jpn>

ボランティアからリーダーへ：ビジネス型コミュニティ普及員として、地域農業に貢献するマイケルさんの物語

ウガンダの青年、アサバ・マイケルさん（27歳）は、農学の学士号を取得後、キタグエンダ地区の公的農業研究機関 NARO-MbaZARDI でボランティアとして活動しました。その後、ササカワ・アフリカ財団（SAA）の農業普及員としてキャリアを積み、「ビジネス型コミュニティ普及員（CCBF）」として地域の農業発展に力を注いでいます。

小規模農家が直面する課題を解決するため、マイケルさんは農業資材と技術を手頃な価格で提供する資材店を開業しました。日本財団の支援を受けた SAA の CCBF プログラ

ムを通じて、小型農業機械や肥料・農薬の活用法、実演圃場での技術指導、ビジネス管理など幅広いスキルを習得。地域の農家を総合的に支援しています。

特に注目すべきはジャブプランター（播種機）の導入です。この機器は植え付け作業を効率化し、労働時間を削減するとともに生産性を向上させます。2024年8月から10月にかけて、マイケルさんは13人の農家にこのサービスを提供し、27エーカー分の作業を支援しました。また、この期間中に資材店で1,358米ドルの農業資材を販売し、農家の収量改善に貢献しました。



2024年、マイケルさんは農家への研修や実演圃場の運営にも力を入れています。キエンダガラ地域協同組合の普及員として、253人の農家を対象に、技術指導や植え付け、散布サービスを提供しました。その成果として、農業サービスで348米ドル、資材販売で1,017米ドルの収益を得る

とともに、ジャブプランターによる播種サービスのために3人の若者を雇用しました。

SAA の CCBF イニシアティブは、ウガンダ政府のパリッシュ・ディベロップメント・モデル（PDM）と連携し、若者の能力向上と持続可能な農業の推進を目指しています。マイケルさんの物語は、地域からの取り組みがいかにして生活とコミュニティを変革できるかを示しています。「SAA の支援のおかげで、私は自分の人生を変え、地域の成長にも貢献することができました」と彼は語り、農業ビジネスの可能性を追求することの重要性を他の人々に伝えています。

全文はこちら：

<https://www.saa-safe.org/news/news.php?nt=2&vid=633&lng=jpn>

CCBFとして地域農業に貢献するアサバ・マイケルさん



3. 活動報告

SAA と FOLU がウォルタイ・ミソマ生産者グループを訪問

SAA エチオピア事務所は、Food and Land Use Coalition (FOLU) と共同で、バレ県イル・サンビトゥウ村の「ウォルタイ・ミソマ生産者グループ」を訪問しました。今回の訪問には、SAA が支援するアナソラ郡とネゲレアルシ郡の農家や農業普及員が参加し、多数の生産者グループのメンバーや地元関係者から温かく迎えられました。

ウォルタイ・ミソマ生産者グループは、2015年に33人の農家が2,770米ドルの資本をもとに20haの土地を開墾し、活動をスタートしました。その後、長年にわたる努力を重ね、2024年末時点では、463,819米ドルの資本と252人の組合員を擁する認証種子増殖協同組合へと成長。現在は485.5haの土地を管理しています。



同グループは、1,000トンの容量を持つ種子の貯蔵庫を所有する他、様々な機械化を進め、移動式の種子洗浄機や水分測定器などを活用し、品質向上にも取り組んでいます。特に小麦の種子生産では、収穫量が7.5t/haに達する5品種を育成し、年間5,800トン以上の種子を地域の協同組合に供給しています。

また、組織体制も整っており、規制当局が求める品質基準の遵守を徹底するため、8つの小委員会を設置しています。訪問したSAAチームは、グループメンバーやリーダーたちの献身的な姿勢に深く感銘を受けました。

SAA 環境再生型農業コーディネーターであるメレス・リへは、参加した農家に対し、ウォルタイ・ミソマ生産者グループが実践する優れた取り組みを積極的に導入するよう呼びかけました。

一方で、今回の訪問ではいくつかの課題も明らかになりました。単一栽培によるリスク、土壌の肥沃度の低下、害虫管理の課題、さらには肥料の過剰使用が指摘されました。これらの課題に対応し、地域に広がる83,344haの耕作可能地のポテンシャルを最大限に引き出すためには、多様化と持続可能な農法の導入が不可欠であると考えられています。



アボカドの収穫後ロス削減に向けたワークショップ



アボカドの収穫後ロス削減に向けたワークショップを開催

ササカワ・アフリカ財団（SAA）エチオピア事務所は、Food and Land Use Coalition（FOLU）エチオピア支部と共同で、ウォライタ県ソドおよびジンマ県にてアボカドの収穫後ロス削減に向けたワークショップを開催しました。本ワークショップには、中央エチオピア、オロミア、シダマ、南エチオピア、南西エチオピア地域の行政関係者、研究者、民間セクターの代表者などが参加し、アボカドの生産、輸送、マーケティング、収穫後の損失に関する最新の研究成果を共有しました。

ウォライタ県では、エチオピア南部地域農業局のアドマス・アウオケ局長が挨拶し、SAA の長年にわたる農業普及活動への貢献を高く評価しました。ジンマ県では、オロミア州大統領府のケディル・ネフォ氏、エチオピア・ポストハーベストマネジメント協会（ESPHM）のイェトネ・ベケレ会長による講演が行われました。両会場では、研究の背景、方法論、技術および管理手法に関する調査結果と提言が発表され、参加者との活発な意見交換が行われました。



ワークショップで講演する SAA のフェンタフン事務所長

これまでに、310 名以上の主要関係者が同様の意識向上および能力強化ワークショップに参加しており、本イベントはエチオピアにおけるアボカド・バリューチェーンの収穫後ロス対策のさらなる発展に向けた重要な一歩となりました。

日本財団支援による製粉プロジェクトが女性の自立と地域発展を促進

4 年前、SAA エチオピア事務所は、日本財団の資金援助を受け、エチオピア中央部アンガチャ郡シノフナムラ村に「イエミセラク女性農産物加工グループ」を設立しました。その後、SAA は農村部の女性 25 名で構成される創設メンバーに対し、ビジネススキル、記録管理、グループ運営、貯蓄・融資管理、農産物加工技術、製粉所の運営管理など、実践的な研修プログラムを実施しました。

SAA、郡行政局、市当局からの資金提供によるプロジェクトへの支援は約 72,500 米ドルに達し、その一部は三相電力の確保などに充てられました。この投資により、地域経済の活性化や雇用創出が促進され、グループのメンバーがさらなる事業拡大を進めるための基盤が整いました。

製粉所を訪問したアンガチャ郡農業局のテメスゲン・アセファ局長は、SAA の取り組みにより農家の知識と能力が向上したことに感謝の意を表しました。同様に、ケンバタ地区副管理者兼農業局長のテショメ・ヘラモ氏も、その成果を高く評価しました。SAA エチオピアのフェンタフン・メンギスツ事務所長は、地元関係者の協力を述べるとともに、SAA の戦略である環境再生型農業、栄養に配慮した農業、市場志向型農業の重要性を強調しました。

このような取り組みは、ステークホルダー間の協力が、農村地域の発展、女性のエンパワメント、持続可能な成長

アンガチャ郡の製粉所を訪れた SAA チーム



にいかにかに寄与できるかを示しています。

その後、アンガチャ郡と SAA の支援を受け、グループはシノフナムラ行政から土地を取得し、市場中心部に製粉所を建設しました。この施設には、穀物用とコショウ・スパイス用の 2 台の製粉機（20 馬力の電動モーター搭載）が設置され、これまで 20km 離れたホサエナの製粉所まで足を運ぶ必要があった住民が、地元でサービスを受けられるようになりました。



ウガンダにおける視察研修を通じた OSCA リーダーの能力強化

2024 年秋、SAA は日本外務省の支援による「ウガンダ共和国多目的農業協同組合の活性化・電子化推進プロジェクト」の一環として、ルウェロ県およびカセセ県への視察研修を実施しました。この視察は、農家や地域リーダーに対して、実践的な農業技術の習得を支援することを目的としています。

ワンストップ・センター・アソシエーション（OSCA）のリーダー12名と、ランゴおよびカラモジャ地域のコレ、オトゥケ、ナパック、アビム県の農家が参加し、高付加価値作物の生産、灌漑管理、市場志向型農業の推進に焦

点を当てたプログラムが実施されました。

視察先には、Zirobwe Kalagala 多目的青年協同組合と Mubuku 灌漑計画が選ばれ、参加者たちは農業の課題に対する具体的な解決策を模索するとともに、革新的な取り組みを学びました。ルウェロ県では、トマトやタマネギといった高付加価値作物の栽培事例を通じて、その経済的な利点を学びました。また、カセセ県では、灌漑技術や市場との連携が収穫量や収入を向上させる重要な鍵であることが強調されました。

両視察先において、安定した組織運営には、組織的なリーダーシップと新しい農業技術の導入が不可欠であることが再確認されました。今回の研修で得られた知見をもとに、OSCA は新しいアプローチを導入し、生産性の向上、市場アクセスの強化、農業普及サービスの充実を図り、最終的には組合員や地域社会全体に利益をもたらすことを目指していきます。

全文はこちら：

<https://www.saa-safe.org/news/news.php?nt=1&vid=634&lng=jpn>



トマト農場を見学する SAA チーム

ZIIKA 農業資材店の視察



地域の農業機械メーカーを育成し、収穫後ロス削減へ貢献

ササカワ・アフリカ財団（SAA）ナイジェリア事務所は、農作業の効率化、収穫後ロスの削減、食糧安全保障の向上を目指し、地域の農業機械化を推進しています。2024年11月10日から21日にかけて、ザリアのアフマド・ベロ大学 農業研究所で、ナサラワ州の製作者20人を対象に脱穀機製造のための技術研修を実施しました。



この研修では、溶接や加工、設計図の読み方、材料選定、安全管理といった実践的なスキルを指導しました。これにより、小規模農家の課題に対し、シンプルで費用対効果の高い機械化というソリューションを提供します。

SAA ナイジェリア事務所のゴドウィン・アサー所長は、「地域で農業機械の生産体制を整えることで、雇用を創出し、地域経済の発展にも寄与しています」と述べ、研修の重要性を強調しました。

参加者の一人、ラフィア地区在住のウスマン・ジブリンさん（28歳）は、「この研修で学んだ知識を活かし、脱穀機を製造して地域の農家を支援したい」と語り、意欲を見せました。

このプロジェクトは、国際熱帯農業研究所（IITA）との協力により実施されており、地域に根ざした農業機械化ソ

リューションを通じて、収穫後ロスの削減や農家の収入安定に貢献しています。

全文はこちら：

<https://www.saa-safe.org/news/news.php?nt=2&vid=629&lng=jpn>



SAA ウガンダ事務所、全国農業普及週間 2024 に参加



2024年10月29日～11月1日、第5回ウガンダ全国農業普及週間（National Agricultural Extension Week: NAEW）が、「農業普及を通じて強靱で回復力があり、競争力のある農業・食料システムを実現する（Making Extension Count for Robust, Resilient, and Competitive Agri-Food Systems）」というテーマで開催されました。

同イベントは、農業関係者が一堂に会し、農業普及アドバイザーサービスの変革およびベストプラクティス共有の重要な場となりました。

SAA は、ポストハーベスト、環境再生型農業、精密農業 (Precision Agriculture) 向けのデジタルツールなどの農業技術を展示紹介しました。また、ウガンダの農業分野への長年の貢献に対する感謝状を受領しました。

SAA は、コミュニティ・ベース・ファシリテーター (CBF) のビジネスモデル移行による、包摂的な農業成長を目指していることを来場者に発表。気候変動への耐性、包摂性、デジタル技術の活用などの議論も展開されました。イベントの提言としては、「農業普及アドバイザーサービスをビジネスとして推進すること」「包摂性を高めるためのデジタル技術の活用」「農業の近代化に向けた官民パートナーシップの活用」がまとめられました。

本イベントは、ウガンダの農業普及フレームワークにおける構造的な課題に取り組み、より強靱で競争力のある農業システムを目指す議論のプラットフォームとなりました。

全文はこちら：

<https://www.saa-safe.org/news/news.php?nt=1&vid=631&lng=jpn>

農業普及のデジタル化と官民パートナーシップの可能性



2024年11月7日、ササカワ・アフリカ財団 (SAA) は、「ナイジェリアの官民パートナーシップ (PPP) によるデジタル農業普及システム推進協議」プロジェクトのローンチ・ワークショップを開催しました。ワークショップでは、ナイジェリアにおけるデジタル農業普及のための持続可能な官民パートナーシップ (PPP) モデルを確立することの重要性が強調されました。

本プロジェクトは、ビル&メリンダ・ゲイツ財団の支援を受け、オヨ州、ゴンベ州、カドゥナ州において、ジェン

ダー平等の推進や気候変動への耐性強化を図りながら、小規模農家のニーズに応えるデジタルソリューションの調査・開発が進められています。プロジェクトは、AFAAS、AGRA、サヘル・コンサルティング、アフリカ・プラクティスなどのパートナーと共に実施されています。

農業普及局のアデオラ・ロードバンジョ局長は、農業普及のデジタル化推進がいかに緊急性のある課題であるかを強調し、次のように述べました。「ナイジェリアでは、1万人の農家に1人の普及員という深刻な状況にあり、普及員が研修を実施して、フォローのために農家を訪問するという方式は効果を発揮しません。政府はICTを活用した国家農業普及政策 (NAEP) を進めていますが、ICTの農業普及システムへの統合が、農業普及の再生には不可欠です。」

AFAASのシリム・ナディ会長は、小規模農家に利益をもたらすためには、農業普及にデジタルソリューションを統合する重要性を強調し、「プロジェクトは、官民非営利部門の協力を促進するプラットフォームを設計し、その長期的な持続可能性を確保する必要があります」と述べました。

SAAのゴッドウィン・アサー事務所長は、農業の変革に向けた関係者間の協力を呼びかけ、「SAAは、小規模生産者のニーズを評価し、官民パートナーシップ主導のデジタル農業普及モデルを構築する基盤を築いています」と述べました。

この取り組みは、ナイジェリアにおける農業普及の変革と、技術を通じて農家の能力を強化するための重要なステップです。

全文はこちら：

<https://www.saa-safe.org/news/news.php?nt=2&vid=630&lng=jpn>

SAAのアサー事務所長 (左) と NIFAASのトログボンセ前会長 (右)



「農家学習生産クラスター（FLPC）」イニシアティブのパイロットプロジェクト



地域規模での持続可能な農業を推進

SAA エチオピア事務所は、ネゲリアルシ郡およびアナソラ郡において「農家学習生産クラスター（FLPC）」イニシアティブのパイロットプロジェクトを実施しています。本プロジェクトには、計74haの農地を対象に、157名の農家が参加しています。

FLPCは「農家生産クラスター（FPC）」モデルを基盤とし、環境再生型農業の実践を組み込むことで、土壌の健全性向上、農業生態系の多様性の確保、作物の生産性向上を目指しています。具体的には、不耕起栽培、堆肥化、バイオ肥料の活用、高収量品種の導入など、持続可能な農業技術を導入しています。

さらに、SAAは農家が改良種子を有効活用し、肥料や農薬などの資材を適切に管理できるよう支援を提供。この取り組みにより、土壌と水の保全、作物残渣管理、作物の多様化が促進され、栄養改善と収入向上に寄与するとともに、気候変動や害虫リスクの軽減にもつながっています。

FLPCイニシアティブは、農家や実施パートナーから高い評価を受けています。SAAおよびFOLUが訪問したネゲリアルシ郡ターゲガロ村では、農家から「FLPCは主要作物の生産性向上にとどまらず、土壌の健全性を回復させ、収入源の多様化を促し、気候変動や病害虫リスクを軽減する」との声が上がりました。政府関係者や専門家も、SAAの環境再生型農業推進の取り組みを高く評価し、FLPCを学習の新たな拠点として評価しました。

